

## 環境負荷が低く、業務効率が高いオフィスを目指し、ワークスタイルの革新を進めています。

### ■考え方

リコーグループでは、非生産事業所でも、生産事業所と同様の考え方でPDCAサイクルによる省エネ活動や排出物の削減活動を推進しています。空調設備や照明、ごみの廃棄など、オフィスのどの部分の環境負荷が高いかを定量的に把握し、効果の高い施策を計画的に展開しています。リコーグループでは、文書管理の仕方や電話やPCの使い方など、社員の働き方やワークフローの見直しに踏み込んだ改善施策を展開し、より環境負荷が低く、業務効率の高いオフィスづくりを進めています。今後も、ワークスタイルの革新により、オフィスの環境経営を追求していきます。

### ■2010年度までの目標

◎非生産活動にともなうCO<sub>2</sub>排出量を2006年度実績以下に抑制（リコーおよび国内非生産会社）

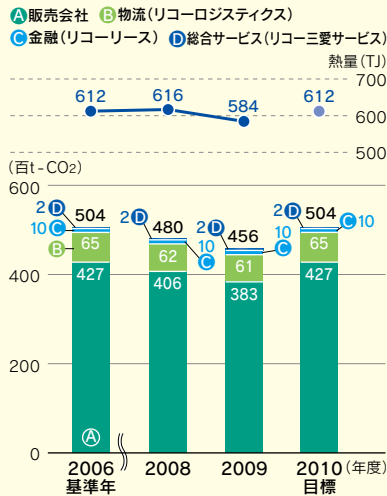
### ■2009年度のレビュー

オフィスでのCO<sub>2</sub>削減活動は、働き方やワークフローの見直しに踏み込んだ改善活動を展開し、CO<sub>2</sub>排出量を2006年度比9.5%削減しました。全員参加型の活動も、一斉退社を呼びかける活動の徹底と実施日数を拡大し、効果を継続拡大しています。また、自らのオフィスでリコー製品の省エネ性能活用（省エネモード設定見直し）を推進する活動を展開し、環境負荷削減効果を上げるとともに、お客様に活用をお勧めするためのノウハウとして役立てています。

### 《日本》

#### エネルギー使用量（CO<sub>2</sub>換算・熱量）

##### ①リコーグループ（非生産）



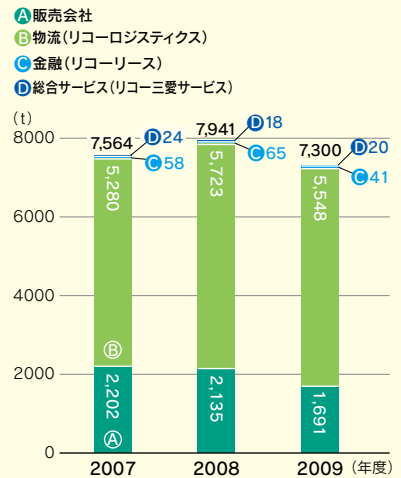
※ グラフ①②のリコーロジスティクスの2008年度の増加はデータ取得範囲の拡大によります。

### ■今後の取り組み

業務での改善を中心としたCO<sub>2</sub>削減活動を中心に進めていきます。また、このノウハウを社内でも共有するとともに、オフィスソリューション事業のノウハウとして蓄積し、お客様へご提案できる事例づくりにもつなげていきます。

#### 排出物総発生量

##### ②リコーグループ（非生産）



### スーパーフレッシュアップデート実施による

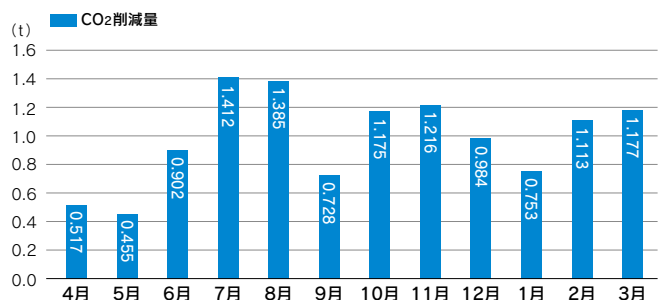
#### CO<sub>2</sub>削減効果

##### 《リコー／日本》

リコーでは、社員の長時間残業防止や心身のリフレッシュ、および事業所の環境負荷削減の目的で、毎週2日間を「スーパーフレッシュアップデート」とし、18:30までの社員の退社とオフィスの消灯を実施しています。1,736名の社員が働くリコー本社事業所でのこの施策のCO<sub>2</sub>削減効果は、スーパーフレッシュアップデート1日当たり平均約0.15トン、年間約11.8トンでした。

### スーパーフレッシュアップデート実施によるCO<sub>2</sub>削減効果

本社事業所：社員1,736人 2009年4月～2010年3月



**省エネモード利用促進に関する社内実践**

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、お客様の環境負荷削減を支援するため省エネモード利用の提案活動を行っています。

お客様に自信を持って省エネモードをお勧めするには、実際にどれだけの効果が得られるか、また、お客様がどのような感想や意見を持たれるかを把握する必要があります。

そこで、2009年2月から2010年3月の期間、国内外のグループ会社内で使用している合計約1,500台のコピー機を対象に、省エネモード設定による効果検証と課題抽出を行いました。その結果、業務上の特別な事情がある場合を除き、支障なく継続して省エネモードを使用できることが把握できました。また、社員がお客様の視点で考えた“省エネモードをお客様に活用して頂くための改善提案・情報”を収集することもできました。この社内実践による対象機器の1カ月間の環境負荷削減効果の合計は、CO<sub>2</sub>が約17トン、電力は約45 MWhでした。

今後も、リコーグループでは、製品使用時のCO<sub>2</sub>の削減を図ると同時に、社内検証を継続的に実施し、お客様への省エネモード活用推進活動に活かしてまいります。

**環境負荷の少ないオフィスを自ら実践する**

**グリーン認証と省エネプログラム**

《リコーヨーロッパ、欧州極グループ会社/ヨーロッパ》

リコーヨーロッパ (RE) と欧州極の全グループ会社では、お客様にコストダウンと環境負荷削減のソリューションを提供するPpP(Pay per Page)Greenマーケティング戦略\*をサポートするために、2つの社内実践活動を行いました。

リコーの複写機には、オフィスの環境負荷削減に役立つ優れた省エネ機能がついています。社内実践では、自社のオフィスで使用中の機器について、最適配置や省エネモード、両面プリントによる紙削減を実践し、それによって得られた環境負荷とコスト削減効果を社員が明確に認識するための活動を行いました。

まず、2009年5月から、欧州極のすべてのグループ会社で「グリーン認証プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトは、グループ各社が社内にあるオフィス機器(リコー製品および他社製品を含む全機器)の使用状況をチェックし、環境負荷とコストを含む総所有コスト(Total Cost of Ownership: TCO)の確認を行います。さらに、コンサルティングツールで使用状況とTCOを綿密に分析し、生産性や利便性を向上させながら、機器の台数を減らし、環境負荷を最小化する最適なソリューションを生み出します。そして、そのソリューションを実際にオフィスに適用し、CO<sub>2</sub>とコストの削減が実現したら、REのトップマネジメントがその削減量に対して署名入りグリーン認証書を発行します。2010年3月、リコーフランス(RFR)が第1号の認証を取得しました。4月にはRicoh Europe

(Netherlands) B.V. (REのアムステルフェーン本社)がこれに続くなど、グループ各社でグリーン認証書を取得するための社内改善を実践しています。

第2の社内実践活動は、「社内省エネプログラム」です。RE ロンドン本社では、2009年9月から4カ月間の特別プロジェクトを実施しました。これは、リコーが推奨している省エネモードが本当に機器を使っているお客様の使い勝手に合っているかどうかを、お客様に実際に提案する前に社内ですべて実践してみようということに加え、実践の中からさらに改善点を見つけてお客様への提案につなげていこうという主旨です。

省エネモードについては、①実際のオフィス環境で有効に働いているかどうかを、使用機器に電力メーターを装着し測定・検証する、②検証結果を基に、社員に使いやすさに関するヒアリングを行い、より効率的な省エネモードを見つけて実行する、の2点を実施しました。また社内機器の省エネ設定を、前半2カ月はリコーの推奨設定で、後半2カ月は推奨設定よりさらに電力削減になるモード設定にしたところ、後半の2カ月間の消費電力は前半2カ月比約13%削減になりました。

また紙削減については、①コピー時の両面利用を社員に呼びかけ、両面利用に関する意識の向上を図る、および②両面利用率が低い社員に対しては、仕事のやり方などをこまめにヒアリングし、両面利用の可能性を一緒に追求する、の2つを実施しました。

さらに社内機器の両面設定をデフォルト設定にしましたが、顕著な差がなかったため調査したところ、両面利用率がもともと平均70%前後と社員の意識が高かったためであることが確認されました。REでは、今後もこうした改善の社内実践を継続し、経験を生かしてお客様の使いやすい環境負荷削減提案につなげていきます。

\* リコーグループのグローバル戦略であるTotal Green Office Solution (TGOS)のもと、欧州極で展開されるマーケティング戦略。



社内複合機の省エネ状況を確認するRE環境担当マネージャーTom Wagland

RFRに送られた第一号のグリーン認証書